

第275回原医研セミナー

第39回放射線災害・医科学研究 機構・拠点研究推進ミーティング

以下のとおり開催いたしますので、ご参加くださいますよう、ご案内いたします。

開催日時：2025 年 12 月 23 日（火）17 時 30 分～

開催方法：オンライン

接続先：Zoom(ミーティング) ID：890 6191 5257

Zoom URL：

<https://us02web.zoom.us/j/89061915257?pwd=Uk93L2JWWDJ3dnFkYmkvSjFGN21DZz09>

Zoom パスワード：538773（上記 URL をクリックして参加する場合は入力不要です）

タイトル：ELSI と広島大学と原爆

発表者：広島大学原爆放射線医科学研究所 附属被ばく資料調査解析部

特命准教授 久保田 明子 先生

現在、日本の医学研究や科学技術の世界では、ELSI（Ethical, Legal and Social Issues、倫理的、法的、社会的課題）の議論が活発だ。広島大学病院等と提携して「被爆2世のゲノム解析研究」を進めている放射線影響研究所では、ELSI を非常に重視し、2024 年 12 月には「原爆被爆者のゲノム研究におけるデータ返却に関する ELSI 国際シンポジウム」を開催した。

広島大学内でも、大学病院では、ELSI にのっとった PPI（Patient and Public Involvement、患者・市民参画）について、AMED のプロジェクトを背景に取り組み、共創科学基盤センターでは、RRI（Responsible Research and Innovation、責任ある研究・イノベーション）を強く意識した ELSI の研究と発信を行っている。

報告者の関心は ELSI の源流となる被爆者データの問題であるが、上記のような現状について、源流からどう捉えられるのか、といったことを検討したい。

タイトル：超解像深層学習再構成法による肝動脈造影下 CT の画質改善について

発表者：広島大学病院 診療支援部 画像診断部門

診療放射線技師 小鷹狩 賢司 先生

肝動脈造影下 CT（CTHA）は、肝細胞がんの診断および治療に有用な検査である。デバイスの進歩により、マイクロカテーテルをより末梢の肝動脈枝まで進めて治療を行う超選択的動脈化学塞栓術（ultra selective TACE）が可能となり、高い局所制御率と肝予備能の維持が報告されている。ultra selective TACE を適切に実施するためには、CTHA の画像から肝細胞がんを直接栄養する Feeding Artery の正確な同定が重要であるが、血管径が細い症例では描出が困難な場合がある。近年、超解像深層学習再構成法（Super Resolution Deep Learning Reconstruction：SR-DLR）が開発され、空間分解能の向上と画像ノイズの低減が可能となった。我々は CTHA 画像に SR-DLR を適用し、その画質改善効果を定量的に解析した。得られた結果を基に、SR-DLR の臨床的有用性について報告する。

連絡先：広島大学霞地区運営支援部総務グループ（原医研主担当） 082-257-5802（内線 5802）